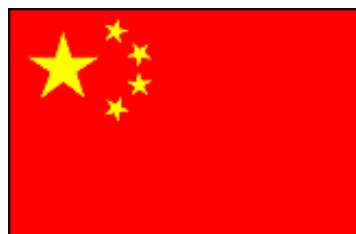
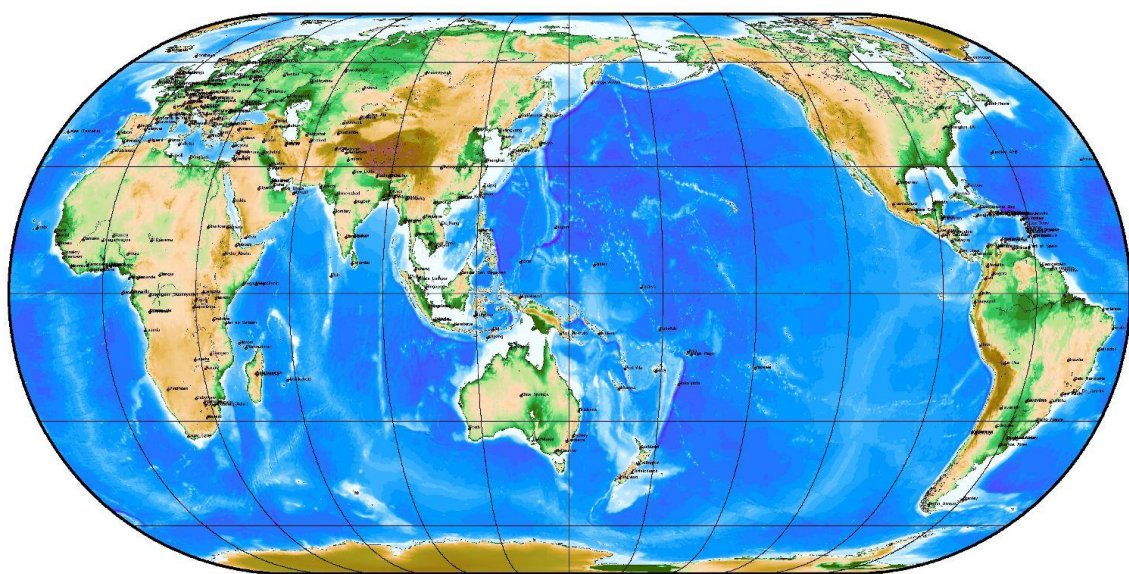


平成 28 年度和歌山県立日高高等学校

国際交流のあゆみ



日高高校 教育開発部

目次

海外研修		ページ
1	カナダ研修 【9月】	1
2	インドネシア研修 【10月】	12
3	ミャンマー研修 【12月】	22
姉妹校交流		
1	中国 西安中学訪問団来校 【7月】	34
2	デンマーク フレデリクスハウン高校訪問 【10月】	43

カナダ研修

目的

- (1)21世紀型教育の先進国カナダ・オンタリオ州の教育省やトロント市内の大学、高校を訪問して、カナダの教育を日本の教育と比較しながら学習する。
- (2)トロント・オンタリオ州在住の和歌山県出身の日系カナダ人の皆さんとの交流をおし、和歌山からの移民の歴史についての理解を深める。また、カナダの移民・難民政策を通して、異文化共生社会や難民問題も身近なものとしてとらえ、学習する。
- (3)トロント・オンタリオ州の産業、文化、人々の暮らしを、フィールドワークを通して学習する。

日時

2016年（平成28年）9月14日（水）－ 9月19日（月）

*事前研修1 7月27日 日高高校

事前研修2 8月17日 日高高校、美浜町役場、アメリカ村資料館

研修先

カナダ・オンタリオ州

事前研修

事前研修① 日時：2016年7月27日（水）9:30－16:00

場所：日高高校

1. 自己紹介（カナダ研修の抱負）
2. 研修概要説明
3. カナダ・オンタリオ州・トロント市についてのワークショップ
4. カナダの教育について



事前研修② 日時：2016年8月17日

場所：日高高校、美浜町役場、アメリカ村資料館（美浜町三尾）

1. カナダの移民について
2. 美浜町訪問
 - ・森下誠史町長、笠野和男副町長、古屋修教育長と懇談する。
3. アメリカ村資料館訪問
 - ・美浜町三尾、日の岬パーク内にあるアメリカ村資料館を訪問する。

参加者

2年生： 稲田 悠人 坂口 陽菜 高松 花帆 西 梨代
 野田 七海 裕間 千央 松永 美優
 1年生： 中井 充歩 村松 美季 山本 詩央理
 引 率： 田中 一也 菊地 貴子

研修日程

日	月日(曜)	地 名	現地時刻	交通機関	予 定 (宿泊地)
1	9月14日 (水)	関西空港発 羽田空港着 羽田空港発 トロント着	15:15 16:25 17:40 16:45	ANA990 AC006 バス	全日空990便にて羽田空港へ (所要時間：約1時間15分) エアーカナダ006便にてトロントへ (所要時間：約12時間5分) 着後、ホテルへ (トロント泊)
2	9月15日 (木)	トロント	午前 午後	バス	カナダ・オンタリオ州教育庁にて講義 グリーンウッドセカンダリースクール訪問 (トロント泊)
3	9月16日 (金)	トロント	終日	バス	ナイアガラ視察 (観光についてのインタビュー) (トロント泊)
4	9月17日 (土)	トロント	終日	バス	トロント県人会40周年記念式典 (日系文化会館商工会コート) 終了後 トロント市内視察(トロント大学・市庁舎) (トロント泊)
5	9月18日 (日)	トロント発	13:35	バス AC005	午前中 トロント市内視察(オンタリオ州議事堂) 空港へ エアーカナダ005便にて羽田空港へ (所要時間：約13時間)
6	9月19日 (月)	羽田空港着 羽田空港発 関西空港着	15:35 21:35 22:50	AN097	ANA97便にて関西空港へ (所要時間：約1時間20分) 台風の影響で出発が予定より1時間遅れた。待ち時間で研修旅行団一人ひとりの思いを述べ合っ、総括を行った。 到着後、解散

1日目

私たちは9月14日から19日までカナダに海外研修に行きました。14時に関西空港に集合しました。15時15分に関西空港を出発し、16時25分に羽田空港に到着し、17時40分に、初めての海外への大きな期待を胸にAC006便に乗り、ついに日本を飛び立ちました。機内ではまず感じた事は、カナダ人のキャビンアテンダントより日本人のキャビンアテンダントの方のほうが、とても接客が丁寧な印象を受け、初めて日本人の素晴らしさを感じました。機内食を食べるのは初めてでした。あまり好きな味では無かったので、「食べ物」という現地での不安要素が追加されました。寝て、起きて、機内



食を食べて、映画を観ての繰り返しをしていると、すぐにトロント・ピアソン国際空港に到着しました。英語での入国審査はとても緊張しました。空港からバスでトロントにあるホテルに移動しました。ホテルに着いて部屋に荷物を置いてから近くのスーパーに行きました。商品はほとんど日本のものよりも一回り大きかったです。どの商品もお洒落に見え、自分の英語に対する憧れを感じました。店内をひと通り回った後、大量のお菓子

を持ってレジへ行きました。セルフレジと普通のレジがあり、もちろんセルフレジに行きました。精算しようとするとお金を入れるところがなく、よく見るとクレジットカードしか使えないようでした。店員さん呼び、何を言っているかよく聞き取れませんでした。なんとか精算することができました。結局、普通のレジに並ぶより多くの英語を使うことになりました。あと、カナダでは1ペニーは切り上げ、切り下げされるようでした。ここでの出来事は最初の良い経験でした。時差ボケはあまり感じませんでしたが、かなり疲れた1日目でした。



(2年4組 稲田悠人)

2 日 目

午前中はオンタリオ教育省に視察訪問をしました。まず教育省の方から歓迎の挨拶とオンタリオ州について説明してもらいました。私たちの代表者も挨拶し、日本からのお土産を渡すととても喜んでくれて嬉しかったです。そして教育省の方々に教育について2つの講義をしていただきました。その講義ではオンタリオの各地域委員会の仕組みや、年齢に応じた教育レベル別の学習などについて学びました。オンタリオでは独自のレベル別や **Grade** を設定した教育をしています。レベルは 1~4 まであり、**Grade** は初等教育では 1~8、中等教育では 9~12 と設定されています。中等教育で **Grade10** を合格しないと卒業できないことにもなっています。初等教育では 75%の生徒がレベル 3, 4 合格しています。中等教育では 85%の生徒が卒業し、卒業認定をもらっています。



この卒業認定を取得するには2つのことをしなければなりません。1つ目が「単位取得」です。全部で 30 単位あるうち、18 単位は必修科目で、残りの 12 単位は自分の進路に関する選択科目の単位です。ガイダンスカウンセラーがこの選択科目についての相談に乗ってくれるようになっていて、日本と似ているところもあるんだなと思いました。あともう 1 つ、卒業認定を取得するためにしな

なければならないことは、「40 時間の地域貢献」です。自分の興味あることに基づいて地域に貢献します。地域ボランティアをすることで単位になるとともに、地域の方々と関わることができるこのシステムが日本にもあれば、地域に対する考え方が変わってくるのではないのと思うました。ぜひこのシステムを日本でも取り入れてもらいたいです。

また、オンタリオの教育の変化についても学びました。2002 年から教育の目標を成績の向上、義務教育の卒業率を増加させることしていましたが、2014 年から計画・目標の見直しと強化が行われました。これにより、先生や親への支援・連携、生徒と向き合うことや

生徒たちの声に耳を傾けることや、各学校への資金援助などの取り組みが始まりました。これらの取り組みにより、2002年~2003年の間は初等教育のレベル3の到達度が53%だったのに対し、2014年~2015年の間では72%にまで上昇しました。カナダの教育レベルの高さは教育に対する充実した取り組みが関係しているのだと思いました。

そして外国からカナダへ来た、英語の教育を受けていない子供達をサポートするシステムがあることを知りました。英語だけでなくその生徒の母国語も大切にしていることを知って、カナダという国は本当に生徒のことを考えているのだと思いました。他にもレベルにばらつきがあっても同じクラスに入れて刺激を与えあうことや、少人数学級ですべての生徒に先生のサポートが行き届くようにしていることなど、日本との違いを知って、一度



カナダの教育を受けてみたいと思いました。

講義を聞いて、これから日本はカナダの教育を取り入れていってほしいと思いました。

(1年5組 山本詩央理)

オンタリオ州教育省で教育制度に関する講義を受けたあと、私たちは、外国から移住してきた人が英語を学習する学校である、Greenwood Secondary School を訪問しました。この学校には、カナダに移民や難民としてやってきた家庭の子どもが多く通っており、カナダの普通学校に通うことができるよう、「英語で学習する」能力育成のためのカリキュラムがあります。日本には移民や難民が少ないことから、このような学校は少なく、移民や難民が多く住む多民族国家であるカナダならではのと思いました。難民としてカナダに来た生徒は、母国できちんとした教育を受けられていないことも多く、この学校に来て小学校で習う内容から学ぶこともあるそうです。実際にいくつかの授業を見学させてもらったときも、定規の目盛りの読み方や、2桁の数の足し算、引き算などを学習しているクラスがありました。英語を習得するために英語の授業ばかりを行うのではなく、英語を使って他の教科を勉強することが英語を上達させるのに役立っているのだと思いました。





他にも、カナダの教育の特色の1つである、「民族同士の多様性の尊重」も実感することができました。例えば、エントランスに様々な国の言語での挨拶が書かれていたり、食堂の壁に世界中の国旗が描かれていたり、校内にボーリング場があったりと、英語が母国語

でない生徒でもお互いが積極的に交流できるよう、学校には様々な工夫が施されていました。

また、この学校訪問で私にとって最も印象深かったのは、現地に住む同い年の日本人学生に会ったことです。その人は、この訪問の約1週間前に東京からトロントへ移住したばかりだと言っていました。全く知らない環境に飛び込み、そこで一生懸命頑張っている人を見て、私は心から「すごい」と思いました。

この学校訪問を通して、教育省で学んだカナダらしい教育を実際に学校に行き自分の目で見て、感じられたことで、本当に貴重な体験ができたと思います。また、カナダと日本の教育制度や学校生活の違いを深く考える機会になりました。

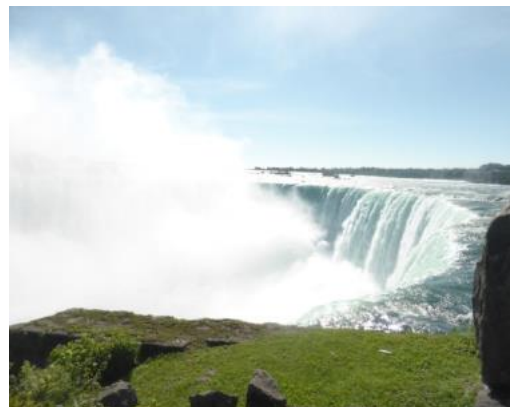
特にカナダで行われている「多民族間の多様性」を重んじる教育は、本当に素晴らしいもので、これからの社会のグローバル化にとっても、それがとても大切になると思いました。



(1年6組 中井充歩)

3日目

3日目はトロントから高速道路を走って2時間ほどの距離にあるナイアガラの滝へ行きました。滝周辺には観光バスも多く、観光地としてとても賑わっていました。昼食を食べたレストランには日本人も多くおり、日本では見られない景色だなと思いました。ナイアガラの滝は自分が想像していた以上に壮大で、水の量もとても多かったです。船で滝の近くまで行った時に



は、カップを着けていても、ベタベタになるほどの水しぶきで、目を開けるのも大変でした。それはテレビや写真では伝わらない、実際に行かないとわからないことだと思いました。滝の周辺にはたくさんのお店や、テーマパーク、ホテルなど観光地に必要なものが揃っていました。観光地として、賑わうためには滝などの既存のもの一つだけでなく、その周りにも楽しめる場所を作らなければならないと感じました。和歌山の観光にも取り入れていかなければならないと思いました。



午後からはナイアガラ滝周辺で観光客にインタビューを行いました。内容はナイアガラの滝の感想や出身国、また日本についていくつか質問しました。韓国や中国などアジア圏の方も何人かいらっしゃいましたが、ほとんどは地元の方やアメリカの方でした。日本の印象について聞くと、「clean」や「cool」などの良いものが多かったと思います。しか

し和歌山県の印象にしばらく、知名度はとても低かったです。このことから、和歌山県の観光の課題が見えたように思います。

また、日本の世界遺産を知っていますかと問うと「知らない」と答える人が多かったのですが、富士山や原爆ドームなど、具体的に挙げると「知っている」と答えてくれる人が多かったです。

せっかく世界に認められるものを所有しているのに、日本のものだと知られていないのはとてももったいないと感じました。これらは日本のものだともっとアピールできたらいいと思いました。



(2年6組 裕間千央 1年5組 村松美季)



4 日 目



東部カナダ和歌山県人会を訪問させていただいた時は、日本語で温かく迎えてくれてとても安心しました。インタビューもさせていただき、カナダ移民の歴史をより深く学ぶことができました。式典には100人以上の方が参加されていましたが、現地にはまだまだ日本の文化や歴史に馴染みのない日

系人も多くいると思うので、私たちの活動を通じて日本とカナダの関係を深めていきたいと強く思いました。

トロント市内視察では、トロント大学と近郊の市場を回りました。トロント大学ではインタビューを予定していましたが、残念ながら天候に恵まれず、十分な成果が得られませんでした。市場では、カナダ名物のお土産などがたくさんあり、賑わっていました。しかしカナダではほとんどの企業やお店が午後5時に仕事が終わるようで、その市場も5時に終了してしまい、あまり時間がありませんでしたが、色々なものを購入することができて楽しかったです。

(2年4組 坂口陽菜 2年4組 野田七海)



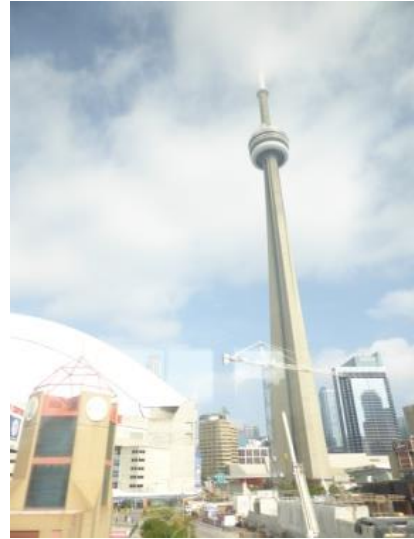
5 日 目



カナダの空港で、私たちの研修中ガイドしてくれた方にお礼を述べ、日高高校から記念品をお渡ししました。カナダに関するたくさんのことを教えていただいたので、別れが少し辛かったです。まだカナダにいたいという気持ちを抱きつつ、日本に向けて出発しました。帰りの飛行機はとても疲れていたもので寝ていました。だから行きより飛行機での時間が短く感じました。楽しみにした機内食を食べることができなくて少し残

念でした。羽田空港に着いてすぐに、ずっと食べたかったお寿司を食べました。久しぶりに食べた日本食はとても美味しかったです。関西国際空港に向かう飛行機に搭乗する前に時間があつたので、一人ずつ約一分間研修の感想を発表しました。それぞれが感じたこと、印象に残ったことはさまざまでしたが、全員にとって充実した研修となりました。その後関西国際空港に向かい、無事に研修を終えられることができました。

(2年2組 高松花帆)



全体感想

カナダ研修に参加し、それまでの印象と変わったことは、本当に多種多様な人々が共存しているということです。単一民族国家である日本とは全く違い、人種というボーダーがない環境に大変驚きました。多国籍国家として人々が互いの違いを認め合い、共存していることに感銘を受けました。



SGHのメインであった東部カナダ和歌山県人会の訪問では、多くの日系移民2世、3世、4世の方々からお話を伺い、さらにカナダ移民について理解を深められました。美浜町三尾にルーツがあり、日本の教育を受けるために和歌山に戻って来て日高高校を卒業した方が多く、大先輩がカナダで活躍されていて大変誇りに思いました。私たちが温かく迎えて下さり、カナダがぐっと近い存在になりました。

他にもナイアガラの滝では観光客の人にインタビューをし、学校訪問では様々な国から集まった生徒とも交流をして、この機会にしか出来ない貴重な経験をしました。多民族が共存すること、これこそが平和の形であり世界が実現していかなければならないものだということをカナダで確信しました。



わずかな期間の研修でしたが、新しい出会いや経験をたくさん得ることができた5日間でした。この経験を将来へ役立てていきたいです。

(2年6組 西 梨代)

全体感想

グリーンウッドセカンダリースクール訪問では、海外の高校生や学校生活を高校生である現在の視点から感じ、得られるものが多くあり、一生で一度の良い経験になりました。県人会では、移民された方々にたくさん質問をさせていただきました。インターネットや文献での情報と移民された方々のお話を照らし合わせ、改めて移民の歴史は偉大なものであり、今後につなげていく必要があるものだと感じました。また、私の祖父母や知り合いを知る移民の方もいらっしやって、親近感が湧きお話が聞きやすかったです。また、夜にホテルに帰ってから買い物に行ったりして、わずかながらに異国での非日常な生活を味わえ、毎日楽しかったです。



異なった文化圏において、実際にそのちがいを体験して、意外に対応できるものだなと思う点や、少し理解しがたいと思う点など、やはりちがいはちがいであるなど感じました。しかしそ

の中で、日本や私たちが学ぶべきであるものも多く存在し、例として移民大国であるカナダの人種差別の少なさや、彼らが共存し互いを認めバランスを保つ方法や考え方などが挙げられると思いました。自分の中ではこれらを考えることが、今後の大きな課題になるのではないかと考えました。

初めての海外、そして学校の代表として参加することに緊張しましたが、それ以上に楽しくて、充実した研修旅行になりました。また、田辺、星林、那賀、海南高校の OECD の皆さんとも交流でき、親交を深められた、非常に良い機会になりました。

(2年1組 松永美優)



インドネシア研修

ふるさとの防災に学ぶ

目的

インドネシアにおける防災対策、自然災害への危機管理の取組について連携機関において学習すると共に総合的な学習の時間で自分たちが学習した内容や地域合同避難訓練の取組を紹介する。現地の人たちと情報を共有することで、新たな視点から防災や危機管理について考える機会が生まれ、総合学習の時間の探求学習がさらに深められると期待できる。

研修期間

2016年10月23日(日)～10月29日(土) (現地5泊、機中1泊)

研修内容

- ① JICA 訪問、支援活動を視察
- ② ERIA(東アジア・アセアン経済研究センター)を訪問
- ③ マダニヤ高校と交流
- ④ ボロブドゥール遺跡・プランバナン寺院見学
- ⑤ ジャカルタ市内見学

参加生徒 1年生3名・2年生10名、計13名

学年	クラス	氏名	NAME
1	5	小田 裕平	Yuhei KODA
1	5	伊藤 徳亨	Noriyuki ITO
1	6	森 海都	Kaito MORI
2	5	佐藤 誠洋	Masahiro SATO
2	5	川端 研吾	Kengo KAWABATA
2	5	中井 大五	Daigo NAKAI
2	6	辻 明希	Aki TSUJI
2	5	濱田 真衣子	Maiko HAMADA
2	1	鈴木 香那	Kana SUZUKI
2	3	川口 えりか	Erika KAWAGUCHI
2	3	濱本 尚実	Naomi HAMAMOTO
2	4	久保 杏奈	Anna KUBO
2	4	三井田 萌	Mei MIIDA

日程

日	月日(曜)	地 名	現地時刻	交通機関	予 定 (宿泊地)
1	10月23日 (日)	関 西 空 港 発 ジャカルタ着	12:00 17:05	G A 8 8 9 専 用 車	空路、ジャカルタへ (所要時間：7時間5分) 到着後、ホテルへ (ジャカルタ市内泊)
2	10月24日 (月)	ジャカルタ	終 日	専 用 車	JICA 訪問 および支援活動現場視察 (ジャカルタ市内泊)
3	10月25日 (火)	ジャカルタ	午 前 午 後	専 用 車	ERIA 訪問 および市内視察 ジャカルタ市内見学 (ジャカルタ市内泊)
4	10月26日 (水)	ジャカルタ	終 日	専 用 車	学校交流 Madania Secondary School (ジャカルタ市内泊)
5	10月27日 (木)	ジャカルタ発 ジョグジャカルタ着 ジョグジャカルタ発 ジャカルタ	08:05 09:20 18:20 19:40	G A 2 0 4 専 用 車 G A 2 1 5	空路、ジョグジャカルタへ。 到着後、ボルブドゥール・ブランバナンの視察へ 視察後、ジャカルタへ (ジャカルタ市内泊)
6	10月28日 (金)	ジャカルタ ジャカルタ発	終 日 23:15	専 用 車 G A 8 8 8	終日、ジャカルタ市内視察 空路、関西空港へ (所要時間：7時間) (機中泊)
7	10月29日 (土)	関 西 空 港 着	08:15		帰国

1 日目

1-5 小田 裕平、2-5 佐藤 誠洋

9時30分に大阪府の関西国際空港4階南団体受付カウンター前に集合しました。そして保護者の方々に見送られ、搭乗手続きを行い、緊張の中期待と不安を持って飛行機に搭乗しました。機内に入ると外国の方が多く、これからインドネシアに行くのだと改めて実感しました。各自シートに座りシートベルトを締め、12時頃飛行機は離陸準備のため滑走路に向かいました。そのとき緊急時の対処方法の説明がアナウンスとスクリーンで行われました。それはインドネシア語と英語であったので聞き取るに必死になりました。その後滑走路に入った飛行機は滑走路で加速し、ついに離陸しました。機体が安定してきた頃、各自に昼食が配膳され始め、私たちのところにもキャビンアテンダントの方が来て、和食またはインドネシア料理を頼みました。和食のメニューは白飯と牛肉の一味焼き、細うどん、玉子焼き、小松菜の白和え、野菜、和菓子でした。牛肉の一味焼きは機内食だからなのか少し味は濃いめでした。インドネシア料理の主なメニューはパンとシェルマカロニサラダ、インドネシア風チキンの煮込み、ジャスミンライス、野菜、アプリコットケーキでした。関西国際空港からジャカルタのスカルノ・ハッタ国際空港までは約7時間、私たちは主にマダニア高校での英語のプレゼンテーションの原稿を覚えていました。ジャカルタと日本の間には2時間の時差があり、17時頃ついにインドネシアのスカルノ・ハッタ国際空港に到着しました。入国手続きなどを済ませた後インドネシアの空の下に出ると、湿度が日本に比べ非常に高く、眼鏡をかけている人のレンズは曇っていました。そこにはこれから6日間お世話になるガイドの方が待っていました。その後専用バスで5泊することになるホテルに向かいました。ジャカルタの市街地は大都会で日本の東京などのようでした。また、日本に比べ車やバイクの数が非常に多く、交通渋滞は日本とレベルが違いました。ホテルに着くと各自部屋へ荷物を置きに行きました。ホテルのエレベーターにはかざしたカードキーの階にしか止まらないというセキュリティーシステムがありました。そして近くのデパートで、各自グループに分かれて夕食をとりました。日本にもあるファストフード店もありました。ホテルに戻り、本格的に取り組みの始まる明日からへの準備をしました。そして各自就寝しました。



ジャカルタのマクドナルドにて



ジャカルタのラーメン屋にて

2 日目

2-5 川端 研吾、2-5 中井 大五

9 時 30 分から JICA の講演を聞いた。JICA とは日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っている機関ということがわかった。また、アチェ州の防災対策についても知った。インドネシアの人は、スマホを使う人が多いから、地震などの災害が起きたときには、スマホを利用して避難勧告をしているということがわかった。

次に、自分たちが JICA の人に日高高校の避難訓練でどのようなことをしているかについて発表した。また、発表では、新聞紙でマイトイレを作る実演をした。このトイレは、日本の文化である折り紙を利用して作っているので、JICA の人の評価が高くてうれしかった。

午後からは、現地支援活動現場に行き実際にどのような支援活動をしているか視察した。そこでは、手足が不自由な人たちが、服を作ったり、金属の溶接をしていたり、バイクを作ったり、プログラミングをしていたり、スマートフォンを修理したりと、様々なことをしていた。ここでの支援活動では、手足が不自由になってしまった人に技術的な支援をしていることがわかった。

また、リハビリセンターでは、知的障害者の人たちが教育を受けているのを見た。その人たちは、障害者と思えないくらいテンションが高かったのが驚いた。私達は、その人たちと一緒に、日本の文化である折り紙のカブトを作った。インドネシアの言葉はわからなかったが、ジェスチャーをつかってコミュニケーションをとることができた。



プログラミングの様子



リハビリセンターの人が作った服

3日目

2-3川口 えりか、2-1鈴木 香那

私たちは、三日目に ERIA を訪問しました。

初めに建物内を見学し、各国の首脳の間を介して紹介してもらいました。

その後、西村事務総長と対談しました。

一人ずつ自己紹介をし、インドネシアについて色々な話をしてくれました。私たちに一番覚えて帰ってほしいことは「“connectivity” 連結性」と教えてくれました。

最後に記念写真を撮りました。

西村事務総長のアシスタントの岩崎さんから ERIA についての紹介してもらいました。

ジャカルタでは道の面積よりも車を敷き詰めた面積のほうが広く、地下鉄ができてほしいと住民からの声が上がっており、また田舎では道路が舗装されていない地域もあるなどこれからの課題となっているとおっしゃっていました。

次に、現地の人から防災についての講演を聞きました。すべて英語で行われたので、理解するのに苦労しました。「質問を英語ですて」と言われたのですが、うまくできませんでした。もう少し、事前にもらっていた資料を理解しておくべきだったと反省しました。

その後、近くのショッピングセンターで各自で昼食を済ませました。定員さんとコミュニケーションをとることができました。



昼食後、バスに乗ってモスクへ向かいました。イスラム教は肌の露出を控えなければならないので、ガウンを着ました。大音量でずっと礼拝の放送が流れていました。この礼拝は、毎日5回、町のスピーカーから放送され、ホテルで眠っている私たちも毎朝4時の大音量の放送に起こされました。

また、広場の床にはマス目がかかれていて、一人一人がマス目に入って礼拝をします。そこには、

過去にアメリカの元大統領のオバマさんも訪問された場所でした。

モスクを見学した後、ホテルの周辺で夕食を済ませて買い物を楽しみました。

ホテルに戻り3日目が終了しました。

4日目

2-4久保 杏奈、2-4三井田 萌

私たちはマダニア高校を訪れました。オープニングセレモニーでは、互いに学校紹介をし、インドネシアの伝統的な踊りを鑑賞しました。その後、ティータイムがあり、生徒同士でお話したり、インドネシアのお菓子を食べたりしました。その後、パワーポイントを使って、互いに「防災」について発表しました。私たちは、「東日本大震災」、「南海トラフ地震」、「日高高校の防災スクール」の3つに分かれ、英語でプレゼンテーションをしました。英語で発表するのは初めてでとても緊張しましたが、どのグループも練習の成果を出すことができました。

この後、英語の授業に参加しました。授業は全て英語で行われていて、日本の授業との違いを感じました。

昼休憩があり、学校が用意してくれたごはんを食べました。バナナの葉に包まれたご飯や味の濃い料理が多かったです。

昼休憩が終わり、マダニア高校の生徒に日本語で校内を案内してもらいました。日本語を含め、複数の言語を学んでいるようでした。音楽室では、伝統的な楽器であるサロンを体験しました。日本でいう鉄琴のようなもので、色んな大きさがあり、民族的な独特の音色がしました。

最後のエンディングセレモニーで、歓迎の感謝の気持ちを込めて書道パフォーマンスをしました。日本の文化を見てもらえたことと、マダニア高校の生徒の名前を漢字で書くと、

喜んでもらえたことが、嬉しかったです。最後に皆で写真を撮ったり、アドレス交換をしたり、交流ができて良かったです。



マダニア高校の生徒はどの子も明るくフレンドリーで、親切に接してくれました。私たちの未熟な英語にも、わかりやすく話してくれ、会話もとても楽しかったです。国が違う同世代の子たちと触れ合い、たくさんの刺激を得ることができ、貴重な経験になりました。

5日目

2-3 濱本 尚実、2-5 濱田 真衣子

私たちは、ジャカルタから飛行機に乗ってジョグジャカルタへ行きました。ジョグジャカルタでは、ボロブドゥール遺跡とプランバナナ遺跡を視察しました。ボロブドゥール遺跡は仏教の遺跡で、とてもたくさんの仏がまつられていました。とても高くて大きな遺跡で昔の人はこんなに立派な建物を作れることがすごいと思いました。私は、インドネシアはイスラム教の国なので仏をまつている所があると知って驚きました。ガイドさんが、周りを右に3周まわって合掌すると願が叶うと言われていると教えてくれました。3周まわっている間は煩惱を消すために、考え事をしたり、欲を出したりしたら願が叶わないと言われました。私たちは、言われた通りに3周し、それぞれに願いを込めて合掌しました。正面向かって左手にある山はお釈迦様が横たわる姿に似ていると言われているそうです。実際見ると、私も納得できました。周りの景色はとてもきれいで、夢中で写真を撮りました。

昼食はインドネシアのコース料理でした。最初は、どんな料理が出てくるのかと気になって日本人の私にも食べられるかどうかということばかり考えていました。でも、食べてみるとおいしかったので、よかったと思いました。

そのあと、プランバナナ寺院の遺跡を訪問しました。正面には一番高い47mにもなるシヴァ神殿がありました。この寺院には本来百以上の建物があつたそうですが、2006年5月27日に発生したジャワ島中部地震で倒壊し、数が激減したと聞きました。実際に周りを見てみると、倒壊したときに崩れた石などが積み上げられていました。私達が行ったとき、修復作業の真っ最中でした。現在も、修復の作業が行われています。私はそれらを見て、地震がどれだけ大きかったのだらうと思うほどの恐ろしさを見せつけられた気がしました。東北の被災地を夏に視察したこともあり、この寺院でもこのような被害が出ているのを見て、自分の住むところも危ないので気を付けなければいけないことを思い知らされました。また、この寺院はインドネシア最大のヒンドゥー教の寺院だと聞きました。この寺院には女性の神様や牛の神様などがあり、それぞれを見てまわりました。ボロブドゥール遺跡やプランバナナ寺院、モスクなどインドネシアにはいろいろな宗教があることを知りました。

7時間という短い時間での観光でしたが、内容がとても深くて学ぶことはたくさんあつたと思います。

5 日目

2-6 辻 明希

5 日目は、朝から飛行機に乗り、ジョグジャカルタにあるボルブドゥール遺跡とプランバナン寺院の観光に行きました。ジョグジャカルタに着いてからは現地のガイドさんが案内をしてくれ、様々なことを教えてくれました。ジョグジャカルタの「ジョグジャ」はインドネシア語で「平和」という意味で、「カルタ」は「栄える」という意味だということを知って、列強に植民地にされながらも独立を果たして立派な国になったインドネシアの歴史を感じることができました。

ボルブドゥール遺跡では、仏教の歴史を学ぶことができました。世界遺産にもなっているボルブドゥール遺跡はとて大きくて、でも一つ一つにすべて意味があって、すごく細かいところまで考えて作られた遺跡なのだな、と思いました。壁に彫られている絵にも一つ一つ物語があって、それらはすべて今の私たちにも当てはまる教訓であったので、これらの教えをしっかりと語り継いで大切にしていこうと思いました。お昼ごはんはみんなで一緒に食べました。お店の方がお皿に盛るところまでしてくれたの



ですが、すべての料理を一つのお皿に盛ってくれて、そのあたりがインドネシアらしいと感じました。体験できたのはとても良かったけれど、日本人にとったら味の違う料理も全部一緒のお皿に入れてぐちゃぐちゃにして食べるのは、少し受け入れがたいことだと思いました。プランバナン寺院では、ヒンドゥー教の歴史を学ぶことができました。行ったときは地震の影響で壊れている建物もあって残念でしたが、壊れていなければ 200 以上の建物が集まった寺院であると聞いて、ヒンドゥー教の力の大きさを感じました。耳にすることが多い学問の神様のガネーシャや、女の人しか触れることができないダイエットの神様など、個性的な神様の像もあってとても楽しかったです。一番中心に建てられているのが破壊の神様で、最初聞いた時はなぜ破壊の神様がいい神様として像を建てられているのかとびっくりしましたが、この破壊は「ただ物を壊す破壊」ではなく「人にとって悪いものを破壊し、いいものを新しく作る」破壊だと聞き、この神様が大切にされるのも納得がいく、と思いました。



一日観光をしたことで、現地に行かないと決して体験することのできない仏教やヒンドゥー教の歴史や力を肌で感じることができ、自分の目で見ることができたので本当によかったです。この経験を、もっとたくさんの人に発信して多くの人に知ってもらいたいと思いました。

6日目～帰国

1-5 伊藤 徳亨、1-6 森 海都

まず初めに、国立博物館に行った。行くまでは知らなかったことなのだが、その国立博物館は東南アジア最古かつ最大級の歴史博物館で、インドネシアの歴史的産物や歴史的建造物の模型などのいろいろなものをそこで見る事ができた。研修前の事前学習ではインターネットなどを通じてたくさんのことを学んだが、それらの知識をより一層深いものにできた。そして、この国立博物館で最も印象的だったものは、ジャワ原人の骸骨や進化の過程が記された図などが展示されているコーナーがあったことだ。私は歴史博物館などに行ったことがあるが、実際に人間の骸骨は見たことがなかったので、そのことが最も印象的だった。

国立博物館の後は独立記念塔（別名：モナス）に向かった。この独立記念塔は名前の通り、独立した後に記念で建てられた。塔の高さは137mもある。この独立記念塔で一番驚いたことは、この建物は塔という役割だけでなく、インドネシアがオランダから独立するまでの大まかな歴史を模型で学ぶことができる歴史博物館としての役割も担っていることだ。国立博物館では文化的な歴史を、そしてこの独立記念塔の歴史博物館では社会的な歴史を学んだので、インドネシアという一つの国のことを内面から知ることができ、大変満足した。

歴史、歴史ときて次に行った所はまたまた歴史に関係するところであった。それは、ジャカルタ北部にあるコタ地区というところだ。そこは、町並みなどの至る所が他の地区とは全く違うというのが特徴で、その一つが町中にオランダ風の跳ね橋があるというものである。つまり、このコタ地区が他の地区と比べ、比較的有名であるのは、オランダ統治時代の町並みがほぼそのまま残っているというところだ。私も初めて行ったときは、「インドネシアにもこんなところがあるんだな。今までと全然違うから新鮮だな」と思ったくらいであった。

六日目は、以上の三か所がメインだったのだが、それら以外にもジャカルタ最古の港に行ったり、私たちが住んでいる和歌山にはないような超巨大ショッピングモールに行ったりと、なかなか充実した日であった。しかし、この六日目の夜というのは私が初めて行った海外であるインドネシアとの別れの時でもあり、少し寂しく感じた。

ミャンマー研修

1. 目的

本校での総合的な学習(地域産業)を通して、地域と世界、日本と世界のつながりに目を向け、グローバルな視点を持ちながら、地域の発展に寄与しようとする態度を身につける。

2. 学習内容

近年軍事政権にかわって、アウン・サン・スー・チー氏が政権を取ったミャンマーは、経済発展の視点から現在のアジアで最も成長が期待されている国の一つである。そのミャンマーに、地元御坊市にある紀南電設株式会社が進出し、小学校の建設や、無電化地域の電化に尽力しており、今回の訪問では、その電化村及びティラワ経済特区を見学することで、産業の世界的なつながりを意識し理解する。

加えて現地高校生との交流やJACA訪問、その他文化施設などの見学も盛り込み、経済・産業分野だけでなく、言語活動、生徒交流、歴史・宗教・異文化理解など、多様なことを学習する。

3. 参加生徒

高校1・2年生希望者

1年生・・・東 直季、上平 裕次郎、津井田 泰信、狩谷 朱音

2年生・・・土井 卓真、田口 遼、森本 みゆき、橋本 和奈、角田 梨花

引率・・・大西 弘之、田中 紀行

4. 事前学習

(1) ミャンマー講演会 ～ 紀南電設(株)の電化技術移転事業を学ぶ ～

目的：総合学習で取り組んでいる地域産業に関する学習の一環として、御坊市内にある紀南電設の取り組みを学習し、その内容と世界とのつながりを意識し理解する。さらにミャンマーへの興味関心を持たせ、現地研修に向けての動機付けとする。

講師：紀南電設(株) 次長 的場 信夫 氏

日時：平成28年6月16日(木) 15時30分～16時10分

対象：高校1・2年生全員

(2) 語学(英会話)研修

目的：現地でのコミュニケーション手段としての英会話のスキルアップをはかる。

日時：夏期休業中に実施(60分×9回)

対象：ミャンマー研修参加生徒9名

(3) 学習会

目的：現地交流高校で発表するプレゼン能力アップをはかる。

日高地域、和歌山、日本の経済・産業・文化・歴史学習を通して、自分たちが住んでいる日本の現状を再認識し、ミャンマーとの関わりを学ぶ。

日時：平成28年9月2日(金)～ 毎週金曜日15時30分～17時00分

成果物：プレゼン発表用の資料(パワーポイント)

(4) S G Hセミナー

目的：ミャンマーへの関心をさらに高め、生活や文化、歴史などについて正しく理解する。

講師：山内章代 氏(JICA 関西)

日時：平成28年11月11日(金) 15時30分～16時30分

内容：ミャンマーの文化、習慣、産業について、講師先生がミャンマーでの生活を通じて実際に感じたことを紹介してもらう。

対象：ミャンマー研修参加者9名、希望者 合計約50名

5. 研修行程

日時	時間	スケジュール	交通手段/ 便名等
12月12日 (月)	8:30～ 11:00発 15:45着 18:05発 18:50着 21:00	関西空港集合 関西空港発(タイ国際航空) スワナプーム国際空港着 乗り換え スワナプーム国際空港発 ヤンゴン国際空港着 入国手続き等 レンタカーにてホテルへ ホテルチェックイン	各自関空まで TG623 TG305 現地 レンタカー Green Hill Hotel
12月13日 (火)	8:30～12:00 14:00～15:00 15:00～17:00 17:30～19:30 21:00	Yangon Region No.2 Basic Education High School,Kamayut Township 訪問 (プレゼン発表・授業参加) JICAヤンゴン事務所訪問 市内見学 ボジョウマーケット等で市場調査 訪問先高校生との交流会 ホテルへ	レンタカー パトミンレストラン Green Hill Hotel

1 2月14日 (水)	06:30~17:00 18:00 21:00	紀南電設(株)のJICA Project 【草の根技術移転事業】対象村訪問 市内レストランにて夕食後、中華街見学(生活文化調査) ホテルへ	レンタカーと川船 Green Hill Hotel
1 2月15日 (木)	8:30 10:00 11:00 13:30~15:00 15:30~18:30 19:00~20:30 21:00	ホテル出発 タウリン水中寺院拝観(宗教観) ティラワ経済特別区見学(経済的考察) 民俗資料館、館長より資料館の説明及び見学(歴史学習) ミャンマープラザにて自由散策(生活文化調査) シェダゴンパゴダ見学(宗教観) ホテルへ	レンタカー Green Hill Hotel
1 2月16日 (金)	9:00 10:00 10:30~12:00 13:00 16:00 19:50発 21:45着 23:15発	ホテルチェックアウト 紀南電設事務所にてソーラーシステムの講義 市内見学 ①涅槃像 ②アウン=サン=スーチーさん宅 ヤンゴン国際空港へ移動 日本人墓地見学(歴史的考察) ヤンゴン国際空港発 (タイ国際航空) スワナプーム国際空港着 乗換待機 スワナプーム国際空港発	レンタカー TG306 TG622
1 2月17日 (土)	6:25着 07:30	関西国際空港着 入国手続き等終了後空港にて解散	関空にて解散 各自帰宅

<ミャンマー連邦共和国とは？>

2年2組 橋本和奈

わたしたちは、12月12日から17日までの6日間、生徒9名と教員2名、紀南建設より1名の計12名ミャンマー連邦共和国に研修してきました。



東アジアのインドシナ半島西部に位置する共和制国家。面積67万5577km²人口5516万7000人(2013推計)の多民族国家で、人口の6割をビルマ族が占め、チベット・ビルマ語族に属するビルマ語が公用語。話し手2000万人以上、音韻面では一般に4種類とされる声調を持つ。首都はネーピードー。最大都市はヤンゴン(旧称ラングーン)。ビルマ人はおもに平地に住み、少数民族は周辺山地にそれぞれの州を形成している。人口の90%近くが仏

教徒で、仏教は生活にも深く浸透している。

ミャンマーのいたるところにパゴダや寺院があり、仏教遺跡が豊富。(シュワダゴンパゴダ、ティラワの水中寺院など)

その他の民族(ピュー族、モン族、シャン族、カレン族など)

<ミャンマーの産業>



ミャンマーでは住民の約70%が農業に従事し、特にエイヤーワディ川デルタは大米作地帯である。畑ではマメ類やサトウキビ、野菜、果物、ゴマなどが栽培されている。

1990年代までは米が最大の輸出品であったが、近年では天然ガス、マメ類、チークなどの木材、鉍石、金を輸出しており、中心となっている。

<二日目 学校訪問>

2年4組 角田梨花

二日目、ミャンマーのヤンゴン市内にある、カマユ第二高校を訪問しました。高校という肩書きですが、日本で言う小学生～中学生の子達がこの学校に通っていました。時間割は高校生は午前の部、小中学生は午後の部という振り分けられ方をしていました。建物は鉄筋コンクリートできておりカラフルで、植民地時代の面影が残る、少しヨーロッパ風の造りになっていました。カマユ高校の選ばれた生徒たちと、日高の生徒で二人一組のペアを作って校内を案内してもらいました。まず校内の来客室に招かれ、沢山の食事が出されました。食べても食べても出される食事を済ませた後、体育館のような場所でカマユ高校のパフォーマンスグループ5、6組によるダンスや剣道、ミャンマー伝統の踊りなどを見るなどの手厚い歓迎を受けました。その後、贈呈式が行われ、次に日高高校の生徒によるプレゼン発表をしました。



次にカマユ高校の授業に参加しました。普段、口頭説明はミャンマー語で教科書は英語らしいのですが、私たちのために口頭説明は英語で行われました。内容は日本の中学生が習う鏡の反射角でした。先生の話す英語を聞いているだけではなかなか授業内容がわかりませんでした。ホストの子が丁寧に説明してくれてなんとか理解できました。ここで日本と違うなと感じたのは、学校の先生に対する態度です。ミャンマーは日本より厳格な仏教国で、先生に対しての態度が控えめで、授業でも質問などの時間はなく、先生の言われたことを忠実に守っているという印象を受けました。しかしミャンマーの人たちを見ると、日本人と容姿もそう変わらない人も多く、仏教国で、親切で温かみがあり、とても親近感が沸きました。日本語を学んでいる人も多く、校内を歩いていると、「こんにちは」や「写真、とってもいいですか？」など、日本語で話しかけられることも多かったです。

<二日目 学校交流会>

1年6組 狩谷 朱音

アウンサン・スーチーさん宅

私たちはカマユ第二高校に訪問する前にアウンサン・スーチーさん宅に行きました。中には入れず且つ高い塀に囲まれていたのでなにも出来ず、結局写真撮影だけ行いました。

カマユ第二高校生との交流会

同日の午後に行ったカマユ第二高校生と夕食を兼ねてヤンゴン市内のパドンマレストランで交流会を行いました。日本人で家族の仕事の都合でミャンマーのインターナショナルスクールに通う川本姉妹も紀南電設さんの手引きで参加してくれました。二人はミャンマーでの言語の壁や学校生活について教えてくれました。川本姉妹もミャンマーでの生活に慣れるまでかなり時間がかかったそうです。食事はミャンマー料理で脂っこいと聞いていたので少し不安でしたがその割に脂っこくなく食べやすかったです。女子はこの交流会に浴衣を着て参加しました。カマユの高校生もミャンマーの民族衣装のロンジーを着てきていました。ロンジーには日常生活で着るようなものから盛装のために着るようなものまで一杯あるのだなと思いました。私たちはこの交流会でビンゴゲームと鶴の折り方を教えました。ビンゴのやり方は知っている人と知らない人がいました。ミャンマーでは大人の方が宴会の時にたまにするそうですがそこまでポピュラーなゲームでは無いのだなと感じました。折り紙の折り方は教える側の私たちが折り方を覚えていなかったのと、英単語がわからず折り方がなかなか伝わらなかったのでおり終えるまでかなり時間がかかってしまいましたが、カマユの高校生が作り終わった時にとっても喜んでくれていたのでまあいいかなという気持ちになりました。またこの場でカマユの高校生は私たちにたくさんのお土産をくれました。なかには大量のTシャツや、ロンジーをもらっている子もいました。私はこんなに同世代の外国人と接したことがなかったので最初はとても緊張していましたが、ミャンマーの子達が積極的に話しかけてくれたので簡単に仲良くなることができてとてもうれしかったです。



＜三日目 JICA プロジェクト ミータイ村＞ 1年5組 東 直季

三日目の朝は六時半にホテルを出発し、カマユ第二高校の生徒と共にミータイ村へ向かった。街の景色は、都会のヤンゴンからミータイ村に近づくにつれて、建物が少なくなりさらに道も荒れていた。途中バスから川船に乗り換えると、周りはほとんど森林でたまに村が点々とあるだけだった。

村に着くとたくさんの子供たちが列になり手を合わせて歓迎してくれて、とてもうれしい気持ちになった。村を訪問する際の儀式として村の寺院に挨拶した後、訪問者全員で食事をした。村の食べ物に興味津々だった僕は、他の人があまり手を付けようとしない中すべての料理に挑戦した。料理は少しスパイシーで日本では見かけない食材ばかりだったが、カマユの生徒たちと同じように美味しさを感じることができたので、知らないうちに体が適応しているのだと感じた。

村は想像以上に質素で、日本やヤンゴンとは生活水準が大きく違った。竹でできた橋や一メートル幅の狭い道などを見て、どこの家も貧しいのかと思ったが、道の一つ変えるとそこにはバイクを所有している家や、紀南電設さんが設置した太陽光パネルを利用してテレビを見ている家などこの貧しい村でも所得格差があるのだと知った。また、このような村に電化技術の移転事業を行う会社が自分たちの住む場所にあることを考えると、「世界は自分たちの知らないところで繋がり発展していくのだ」と改めて感じる事ができた。急成長を遂げるミャンマーの都市と村を実際に目にして、また体で感じて、今回の経験は非常に有意義で自分の財産になると強く感じた。



<四日目>

2年5組 森本みゆき

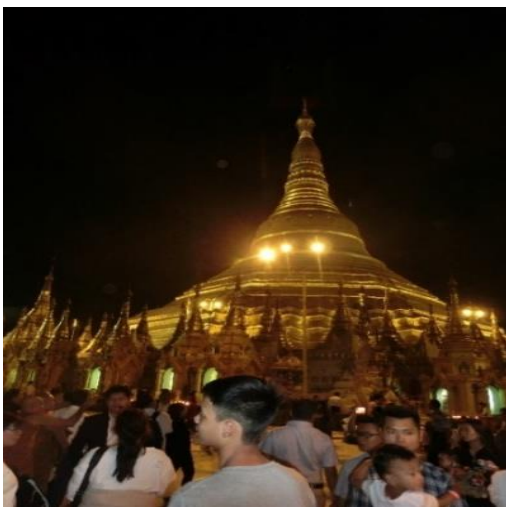
四日目、まず水中寺院に行った。大きな川の真ん中に建っているので川船で渡った。ミャンマーでは、レジャー施設があまりないので寺院がデートスポットによくあるそうだ。そのため、予想に反して若い人たちもたくさん訪れていた。寺院の内部を見学した後、フナの餌やりをした。川が濁っているので、フナの姿はあまり見えなかったが、エサを落とすところに、次々と群がってきておもしろかった。

ティラワ経済特区に行った。まだ多くの工場が建設中で、ミャンマーの経済成長を象徴しているようだった。日本の企業が5割を占めるそうだ。郊外にあるためバスで行ったが、ミャンマーは道路があまり整備されていないので、バスがかなり揺れた。JICAの方が商品を運ぶ際に壊れたり痛んだりしてしまうとおっしゃっていたことに納得した。またミャンマーではよく停電が起こるので多少機械が止まっても大丈夫な繊維産業がよく進出しているそうだ。

午後は民族資料館に行った。施設と言うよりは公園に近くミャンマーの伝統的な家や服などを展示していた。それぞれの民族に少しずつ違いがあり、民族の多様性を感じた。

次にミャンマープラザに行った。日本で言うイオンのようなショッピングセンターで、学生や若い人がよく遊びに来るようだ。日本商品専門店を見つけたが百均のようなお店だった。一緒に行ったミャンマーの学生が薦めてくれた店だが、日本の製品が外国でも人気があることをうれしく思った。

夜はシェダゴンパゴダに行った。すべて金で出来た寺院でライトアップされており、とても綺麗だった。ここは産まれた曜日ごとにお参りする場所が分かれている。お参りの手順は買った花を仏像に供え、柄杓で水を年齢と同じ回数だけかける仏像の前では多くの人が地面に座ってお祈りをしていた。印象的だったのはすべての仏像がイルミネーションで飾られていたことだ。通訳の方がミャンマーでは派手にすることを好むとおっしゃっていたが仏像まで飾り立てるとは思っていなかったため、ここでも文化の違いを感じた。



<五日目>

1年6組 上平裕次郎

5日目は、まずは、ホテルのチェックアウトを済ませ、一旦紀南電設さんの事務所に荷物を置かせていただきました。その際、紀南電設の職員の的場さんが3日目に行った無電化で見たソーラーパネルを見せてくれました。

また、電気の供給方法の説明やソーラーパネルも見せていただきました。電気の供給については、9時間3個のLEDライトを点けばなしにしてもまだ少し余裕がある程度の電力を毎日ソーラーパネルで生産しているとおっしゃっていました。日本と違い、降水量が少なく日照時間も短いので、比較的安定して電力が得られます。そして、シート型のソーラーパネルについては、電柱にも貼り付けられるほど柔軟性がありとても汎用性が高そうでしたがやはり、その分価格は高いものとなっていました。

次に涅槃像の見学に行きました。4日目にいったシェダゴン・パゴダでも涅槃像はありましたが大きさは比にならないほど大きいものでした。裏側からも見ることでとても面白かったです。そのあと、お土産さんに行きましたが定価で買うととても高いらしく僕



たちは、的場さんに手伝ってもらいながら、英語を使って半ば強引に半額よりも安い値段でブレスレットなどを購入しました。それでも向こうの人達は儲かっているらしく日本との違いに驚きました。その次に僕たちはアウンサンマーケットに向かいました。そこでは交流したミャンマーの学生たちが待っており一緒に買い物をしました。子供達も多く働いておりまだ小学生ぐらいの子が扇子を持って巧みに日本語を用いながら商品を勧めてきたのでかなり驚きました。子供だと断りにくくまた前に来た時に会った子が僕を覚えていてく

れたので余計断りにくかったです。宝石がよく取れるのでブレスレットなどが多いですが竹細工など他にも色々ありました。向こうのお金のチャットは円の10分の1ほどなので1万円でもかなりの品数を買うことができました。

最後に、日本人墓地に行きました。蓮池もあり始め見た印象はとても綺麗だということです。それはミャンマーの方の優しさでありそれも考えながら戦死者の方たちに黙祷を行いました。

＜全体の感想＞

2年1組 田口 遼

僕は今回のミャンマー研修での五日間で関心を持った出来事がとても多くありました。その中でも、ミャンマーには多くの日系企業が進出しており日本製品を見かける機会も多くあったので、このことについて特に関心を持ちました。ミャンマーに進出している主な日系企業は建設業、製造業、商業などで様々な分野の企業が進出していました。私が実際に目にした日系企業では、資生堂、SONY、ワコール、清水建設、紀南電設、大阪王将を展開しているイートアンドがありました。資生堂とSONYを目にすることが出来たのは、2015年末にオープンしたばかりのミャンマープラザという大型ショッピングセンターでした。このミャンマープラザは、日本のイオンに似ている印象を受けました。販売されている商品も、日本のイオンに置いているようなものが多くありました。その中に資生堂やSONYといった日系企業が店舗を展開しているという感じでした。日系企業かどうか分かりませんが、JAPANSTOREという店舗があり、日本で言うところの100円ショップのようなものでした。しかし、値段が日本の100円均一ではなく1800チャット(日本円で180円)均一の設定でした。販売しているものも日本のダイソーやSeriaとほぼ変わらないものが販売されていました。日本人の僕からすると、少し値段の高い100円ショップだという印象でしたが、ミャンマー人の人たちからすると所得に対しての1800チャットの値段は結構高い値段設定ではないのかという印象を受けました。ですが、高い値段設定であっても多くのミャンマー人の人々がJAPANSTOREに来ていました。疑問に思い紀南電設の的場さんに質問してみると、ミャンマー人の中でも所得の差がありミャンマープラザに買い物に行っている人たちは、富裕層や中間層の人たちとのことでした。ヤンゴン市内の町中でも、日本製品を見かける機会が多くありました。その日本製品というのは日本の中古車のことです。ヤンゴン市内の道路を進んでいると、日本の中古車がばかりで大変驚きました。中古車の中には、〇〇会社や△△商事といったどこかの日本会社で使っていたような中古車もありました。このことについて、興味を持ち、調べてみるとミャンマー人は日本製品に対して、故障しにくいという印象を持っているためだ、とのことでした。また、中古車ばかりではなく比較的新しい車種もありました。理由としては、ミャンマーで2011年9月に実施された政策で「燃費が悪い」、「安全性が低い」といった古い車両を新しい年代の車両に入れ替えるため中古車輸入の自由化が進められたとのことでした。ミャンマーでは、日本の中古車は決して安いというわけではありませんでした。輸入する際に、高い関税がかかってしまうため、日本で買うよりも倍以上の値段がする、とのことでした。ティラワ工業団地に行った際には、ワコールと清水建設の工場を見ることができました。ティラワ工業団地の中では、各企業の工場の建設がされている最中なので多くの空き地がありました。また、工業団地の中には、食堂もあり、日本人向けの和食メインの定食屋でした。このことから、ティラワ工業団地では、社員の生活環境も整えられていると思いました。今回のミャンマー研修で色々なことを実際に目にすることが出来て、自分の将来のことについて

の視野が広がりました。

<全体の感想>

2年4組 土井 卓真

自分がミャンマーに行って最も感じたのは、教育の発展です。まだまだ教育の分野が発展していないため、学校に行けない貧しい子と裕福な子の生活の差が大きかったと思う。自分達が訪問した学校は、比較的裕福な子が多く、自分達とあまり生活が変わらな



かった。でも、ボジョーマーケットという自分達が行った観光地には、学校に行けていない子供達が親の仕事を手伝って観光客に商品を薦めてきたりしていた。また、商売のために日本語は覚えていたが、自分達のような教育環境ではなかった。

さらに、JICAを訪問した際には、小学校の教科書が30年間変わっておらず、その状態を今JICAの事業によって変えようとしている状態だと知った。この事業では、体育や音楽等の教科を追加したり、古くからの教え方を少し変化させるなど、いろいろな改革をする予定のようだ。また、現在ミャンマーは、義務教育でないことも課題だと言っていた。だから、今後この事業により、ミャンマーがさらに発展していくと思う。また、自分達が訪問したミータイ村は、中学校は村にはなく、船で通うなど環境の問題で学校に通うのが



厳しくなっていた。こうした地域の子供達にも目を向けてあげてほしいと思った。学校へ行くまでの環境作りや家庭環境の問題によって学校に行けないと思うのでこれから、JICAや政府の手で1人でも多くの子供が学校に行けるようになってほしいと思う。これか

らのミャンマーの発展を将来、ミャンマーを訪れて見に行きたいと思う。また、今回の研修を手伝ってくださった紀南電設の方々には感謝しています。自分達は特に様々な人達に助けもらったのでいろいろな人のきもちをくみとり、この研修を最大限にいかすため、将来このような子を世界で1人でも少なくできるような手伝いを出来ればいいと思う。

＜全体の感想＞

1年6組 津井田 康薫

今回の研修を通じて僕はとてもよい刺激を受けることができた。今回が初めての海外での渡航だったが日本との違いに日々驚かされることばかりであった。まず衝撃を受けたのは「活気」だった。日本、特に僕たちの住む和歌山県では田舎で、人も少なく、とても静かでのどかな様子が当たり前となっている。また、都会でさえもきちんと整い、どこか枠に収まっているという印象を与える。しかし、ミャンマーでは車、人、バイクなど、まるでありの行列のように大量に道を行き交い、あふれかえっていた。それらの車のほとんどすべてが日本車であったということにも驚いた。とびだしそうな人や車があればこれでもかというほどクラクションを鳴らし、退ける。まさに「活気」の塊のような国で大きなエネルギーを感じた。

また国民性もとても温かく心地よい雰囲気だった。学校交流ではきちんと話せるか、また交流できるか不安に思う部分も大きかったが、学校中の人たちに歓迎してもらった。現地の高校生たちは、僕たちの一人一人のパスポートの顔写真付きネームカードを持ち、初対面にもかかわらずフレンドリーに話しかけてくれた。その後のスケジュールにも一緒に参加し、ボジョーマーケットやミャンマープラザなどでの買い物では、自分たちが知らない場所を丁寧に案内してくれたおかげで滞りなく楽しむことができた。それはホテルでも同じで、本当に海外に来ているのかと疑うほど丁寧なサービスで、疲れを癒すことができた。

産業・経済の面では実際に港、経済特区を見学したり、ミャンマーがインドと中国に挟まれているという位置関係などを知ったりすることによって、なぜミャンマーが「アジア最後のフロンティア」と呼ばれるのか理解し、ミャンマーの将来性を感じることができた。その反面、地元の村などでは、まだまだインフラ整備などが整っておらず、不十分なため、紀南電設さんのような技術提供などの活動がいかに重要であるか思い知らされた。本当にかげがえのない経験をすることができたと思う。これからの考え方に生かしていきたい。



中国西安中学来校

7月2日から7日の6日間、中国の姉妹校である西安中学から10名の生徒と4名の先生方が来校し、授業交流やホームステイを通じて生徒同士が交流を行いました。

日次	月日	時間	項目	内容	宿泊
Day 1	7/2(土)	19時頃 21時頃	移動	訪問団、関西国際空港に到着 訪問団、日高高校に到着 ホストファミリーと合流し、各家庭に帰宅	各 ホ ス ト 家 庭
Day 2	7/3(日)		交流	ホストファミリーとの交流日	
Day 3	7/4(月)	朝 午前 午後 放課後	学校生活体験	体育館にて歓迎式 授業体験（高1英語・中1英語） 校内散策、図書館体験 生徒交流会	
Day 4	7/5(火)	午前 午後 放課後	学校生活体験	授業体験（中2英語・高1音楽） 授業体験（高2数学・高1物理） 部活動体験（合唱部・卓球部）	
Day 5	7/6(水)	午前 午後 放課後	学校生活体験 伝統文化体験	授業体験（中3英語・高1体育） 道成寺（絵解きと散策） 部活動体験（弓道部・合唱部）	
Day 6	7/7(木)	朝	写真撮影 和歌山観光 お別れ	ホストファミリーと一緒に玄関で記念撮影 ホスト生徒と一緒にバス観光（白崎海岸～醤油倉見学～県立博物館見学～和歌山城散策） ホテルに送迎後、お別れ	

写真記録

歓迎式



図書館にて



生徒交流会



授業交流風景

附属中学校での交流



高校での交流



部活動交流風景

弓道部



卓球部



合唱部



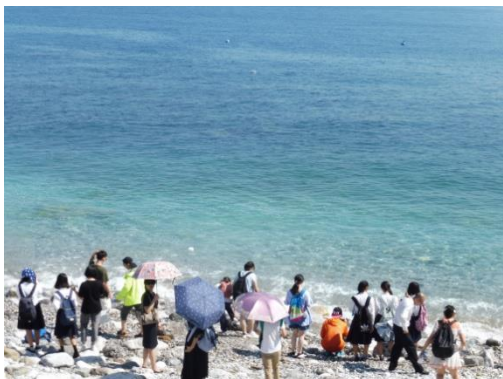
道成寺散策



最終日・集合写真



白崎海岸



県立博物館



醤油倉



和歌山城



西安訪問団のホームステイを受け入れて

2年6組 辻明希

私は今回西安中学校の生徒のホームステイを受け入れることで、二度とすることができないであろう素敵な経験をすることができました。私の家は共働きで、いつも両親の帰りは夜遅くなるのでホームステイを受け入れることなどできるのかと不安に思っていました。でも一週間だけなら仕事もなんとかなるかもしれないし、自分も西安に行ったときに向こうの学生さんたちにたくさんお世話になったということで、思い切って受け入れることにしました。

私の家に来たゲストは私と同年の女の子でした。最初はお互い緊張していて、とてもギクシャクしていたので向こうも気まずい思いをしていたと思います。受け入れた次の日は私の友達と三人でラウンドワンとイオンに行き、一緒にスポーツをしたり買い物をしたりしました。駄菓子屋に行ったときが一番楽しそうにしていたように感じます。一日目は本当に初めて会ったばかりに近かったので、ろくな会話もできませんでした。その時は楽しんでくれているのだろうか不安に思っていたのですが、後から聞くと「緊張はしていたけど楽しかった」と言ってもらえたので良かったです。



二日目からは一緒に電車に乗って学校へ行き、放課後からまた一緒に行動しました。クラブと一緒に行って部員のみなどとだるまさんが転んだをしたり、プリクラを取りに行ったり、日本の学生がする遊びを体験してもらい、楽しんでくれていたので安心しました。同年で同性だったのもあるかもしれませんが、慣れていくうちにどんどん仲良くなれて、



もうずっと前から友達だったような、新しい家族ができたような、そんな感じでした。一番仲のいい友達のことを話したり、恋バナを聞いたり、日本の友達と変わらないようなたわいもない話をしてきて本当に楽しかったです。英語があまり得意ではないので一週間も会話できるのかと不安でしたが、ジェスチャーをしてみたり漢字を書いてみたり、たまには翻訳機能を使ったりとすれば何の問題もなく過ごすことができました。家族とも本当に馴染んでくれて、父も母も娘が一人増えたみたいだと喜んでいました。

最終日のお別れはとても辛かったです。私も彼女もぐしゃぐしゃに泣いて、その日は夜までずっと連絡を取り合っていました。今でも彼女とはたまに連絡を取り合っています。

ホームステイを受け入れることで、中国の国民性について改めて知ることができたり、一生忘れられない出会いをしたりすることができて本当によかったです。これからも今回の出会いを大切にしていこうと思いました。

西安ホームステイ 受け入れ

1年6組 中井 充歩

私が今回の受け入れを希望したのは、昨年度、日高高校から西安中学訪問団が派遣された時に、西安でホームステイをしたからです。その時、ホストシスターに西安についてたくさんのお話を教えてもらったので、今回は、私が和歌山のことを教える、というのが目標でした。

私にとって、ホームステイの受け入れは今回が2回目でした。前回の受け入れでは、満足に英語が話せず悔しい思いをしたので、今回も少し不安でした。

私の家に来てくれたのは、芝芷という女の子でした。「日本のアニメや漫画が大好きで、大学生になったら日本語を勉強したい」と言っていました。私の家にはたくさん漫画があったので、とても喜んでくれました。

彼女が到着した翌日は日曜日で、学校がなかったので、一緒に出かけることにしました。街中と田舎、どちらに連れて行こうか迷いましたが、都会の西安からせっかく和歌山に来たのだから自然を楽しんでもらおうと思い、和歌山を案内することにしました。

彼女は猫が大好きということだったので、貴志川線に乗り、にたま駅長に会いに行きました。私自身も貴志川線に乗るのは初めてで、うまく説明できるかどうか不安でしたが、ネットを駆使して乗り切ることができました。にたま駅長に会って、グッズを買い、写真を取った芝芷は、とても満足そうだったので、私も嬉しくなりました。また、途中下車して神社にお参りに行くと、ちょうどそこで結婚式が行われていて、その様子を見た彼女は感動していました。

その後、アニメグッズのお店に彼女を案内しました。昼間歩き回って少し疲れたと言っていたのに、急に元気になって「ここは天国ね！」と興奮していました。

帰りの電車の中で、彼女は「今日はいろいろなところに案内してくれてありがとう。普段、西安では体験できないようなことができてとても楽しかった！和歌山って素敵だね」と言ってくれました。

普段、「和歌山は田舎で、何もない」という話を周りとするが多かった私にとっては、彼女がこうして喜んでくれたことにとても驚きました。しかし、「和歌山は素敵！」という言葉聞いて、私は和歌山に住んでいることを誇らしく思いました。海外の人の多くは「和歌山」のことを知らないかもしれないけれど、今日一日案内しただけで、彼女に和歌山の良さを少しでも知ってもらえたのだと思うと、達成感がありました。

こうして、この日の和歌山ツアーは私にとって、地元、地域を見つめ直す機会になりました。英語の勉強だけでなく、自分の国、地元についてもっと知識をつけ、誇りを持ってそれを相手に伝えられるようになりたい、と改めて思うようになりました。

ホームステイをして、そして、今回の受け入れがなければこの学びはなかったと思うの

で、本当に貴重な体験ができたと思います。今回の学びを、これからも活かしていきたい
と思います。

西安ホームステイ 受け入れ

1年6組 松村 愛恵

私は一度西安に訪問したこともあり、懐かしく思いながらホームステイを受け入れまし
た。日本は中国とおもてなしの仕方が違うので満足してくれるか不安でしたが、何にでも
よく反応してくれて、日本のおもてなしを少しでもわかってもらえたと思います。

1日目は同級生の友達2人を誘って、たこ焼きパーティーをしました。中国でもたこ焼
きはあるのですが、たこが小さいと言っていたので大きめにたこを切って焼くととても喜
んでくれました。その他、天ぷらもあったのですが全て食べてくれました。そして、花火
をしてその日は終わりました。

2日目は学校と一緒に行きました。前日に一緒に夕食を食べた友達1人と歩いて行きま
した。その通学路には山があり、池があり、多くの自然に触れることができました。途中
で草笛を作って吹いたり、おしゃべりしたりして歩いていきました。真夏の中、1時間も
かけて行ったので少ししんどい思いをさせてしまったかもしれませんが、田舎ならではの
経験をしてもらえたのではないかと思います。

その日の夕食は黒潮寿司に行きました。回転寿司のシステムなど少し戸惑うこともあっ
たのですが、マグロやサーモンなどたくさん食べてくれたのでとても嬉しかったです。今
日の夕食はお寿司だと伝えるとすぐ喜んでいたので、さすが日本食の代表だと思いました。

そして TSUTAYA にも行ってたくさんの本を見に行きました。その子はとても日本のア
ニメや漫画が好きで、「こんな所にいたら、いくらお金があっても足りない」と言って早く
帰ろうと催促してくるほどでした。

そのほかは私のおすすめの映画を英語で見ながら、過ごしました。

最初は日本食や文化が受け入れられるかとても不安でしたが、実際は日本を楽しんでも
らえたようだし、日本を知ってもらえたようなので、私にとっても、彼女にとっても貴重
な経験になったのではないかと思います。

特に私にとっての「西安」は自分の考え、気持ちを成長させてくれた大きな存在です。